

「想像豊かに読む力」を育てる学習指導の工夫

～文学的文章における伝え合う活動を通して～

沖縄市立宮里小学校

教諭 渡嘉敷 艶子

I テーマ設定の理由

近年、急激な社会の変化に伴い、その現状に対応する確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」を育むことがますます重要になってきている。また、PISA調査を始め、各種の調査から、読解力低下などの課題を受けて、すべての教科において言語活動の充実が打ち出された。

中央教育審議会答申（2008・1月）では、「実生活に生きて働く力として国語力を育成していくことが必要である」と示され、目標や内容を具体化して、言語活動を通して確かに活用できる国語力を身に付けさせる学習指導が求められている。特に、活用に関する思考力・判断力・表現力の育成には、「体験から感じ取ったことを表現する」ことや「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」などの学習活動が必要とされる。これらは国語力を基盤として実現されるものであり、国語科をはじめとして各教科や学校教育全体で国語力を育成することが重要とされる。

本校の校内研修では、各教科及び領域などにおける言語活動を通して確かな学力を支える言語能力を育成することを目標に取り組んできた。その結果、児童の学習意欲の向上や言語活動を意識した、表現方法への取り組みなどの成果は得られた。しかし、児童の語彙力の不足や表現力の育成については課題が残った。

本学級の実態は、思ったことや考えたことを進んで発表できない児童や友達の話最後まで聞かず、発表した内容と同じ質問をしたり、友達の発表の良さを上手に見つけることができなかったりする児童がいる。また、文学的文章を読んで想像を深めたり広げたりすることのでき

ない児童もいるのが現状である。この要因は、日頃の授業の中で、想像豊かに読む指導の手立てや話し方・聞き方の指導が不十分であるからだと考えられる。

想像豊かに読むためには、話し方・聞き方の指導と共に、児童一人一人が自分の思いや考えをもてるように、生活経験や読書体験などを十分想起できるような学習指導を工夫する必要がある。例えば、読み聞かせの後にお話の世界を語り合ったり、教科書の挿絵に吹き出しを作って言葉を入れたりする活動を取り入れる。また、読後に主人公へ手紙を書くことや続きのお話を作る活動などを充実させる。さらに、教材に関連した本を読み、相互の交流を通して、考え方の共通点や相違点に気付く。以上の活動で読みを深めたり広げたりすることができると考える。

そこで、本研究では読書に親しみ、自分の言葉を豊かにもち、伝え合う活動を通して言葉を磨き上げ、「想像豊かに読む力」を育てることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す児童像

- 1 読書に親しみ、お話の世界を語り合うことで語彙を増やし、想像豊かに読むことができる児童。
- 2 友達の思いや考えを尊重し、お互いを認め合うことができる児童。

III 研究目標

「想像豊かに読む力」を育てる学習指導の工夫として、児童が自分の考えをもち、思いや考えを伝え合う活動を中心に、第2学年の文学的文章を通して実践的に検証する。

IV 研究仮説

文学的文章を読み取る場面において、児童が読書活動等で、自分の考えを豊かにもち、思いや考えを伝え合うことで相互の言葉を磨き上げ、「想像豊かに読む力」が育つであろう。

V 研究構想図（次ページ参照）

VI 研究内容

1 理論研究

(1) 国語科の指導について

① 小学校学習指導要領国語科

小学校学習指導要領国語科（2008）〔第1学年及び第2学年〕の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる」と示されている。このことから、「想像豊かに読む力」、楽しんで読書しようとする態度の育成は、国語科の内容として極めて重要である。

読むことの能力を育てるための指導事項として、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」「文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと」「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」とあげられている。それらは、本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと、物語の読み聞かせを聞いたり物語を演じたりすること、物語や科学的なことについて書いた文章を読んで感想を書くこと、などの言語活動を通して指導することが重要であると考ええる。

以上のことをふまえ、本研究では「想像豊かに読む力」を育てるために、自分の言葉を豊かにもち、相互の思考を高め合う伝え合う活動を重視して指導することとする。

② 国語科における文学的文章

文学的文章は、叙述を通して、作者の人間や社会に対する考え方を場面や人物と人物の関わり

りなどから具体的に読み取り、自分の経験と重ね合わせて自分の体験を広げるものである。つまり、文学的文章を読み取るとは言語能力の育成と人間形成であると捉えることができる。

文学的文章では、ある出来事から様々な感情を文章を通して体験できる。それは、場面の展開により変化する人間の心の成長過程を共有することで、自分も成長できるものと考ええる。

また、生涯にわたり読書を通して、思考を深めたり、広げたりする豊かな生活を続けるために、文学的文章の読み方の基礎基本を学ぶのだと考えたい。

(2) 想像豊かに読む力について

想像豊かに読むことについては、小学校学習指導要領（2008）〔第1学年及び第2学年〕を参考に、次のようにまとめた。本文の言葉を手がかりにして、①場面の様子を思い浮かべて読む ②人物の気持ちや立場を考える ③登場人物の心情を推し量る ④お話の登場人物に自分を重ね合わせる ⑤自分の経験と比べながら読み、感想を書く ⑥主人公に手紙を書き、登場人物と会話を楽しむ ⑦お話の世界に入って、一緒に歌ったり様子や場面を想像して歌を作ってみたりする、などである。

以上の活動を通して、本文をしっかりと読み取るため、言葉によって相手の考えを理解し、更に自分の考えを表現することができるよう、授業の中でも語彙を増やす学習指導の工夫を図る必要がある。想像豊かに読む授業づくりのため、以下の留意点について述べる。

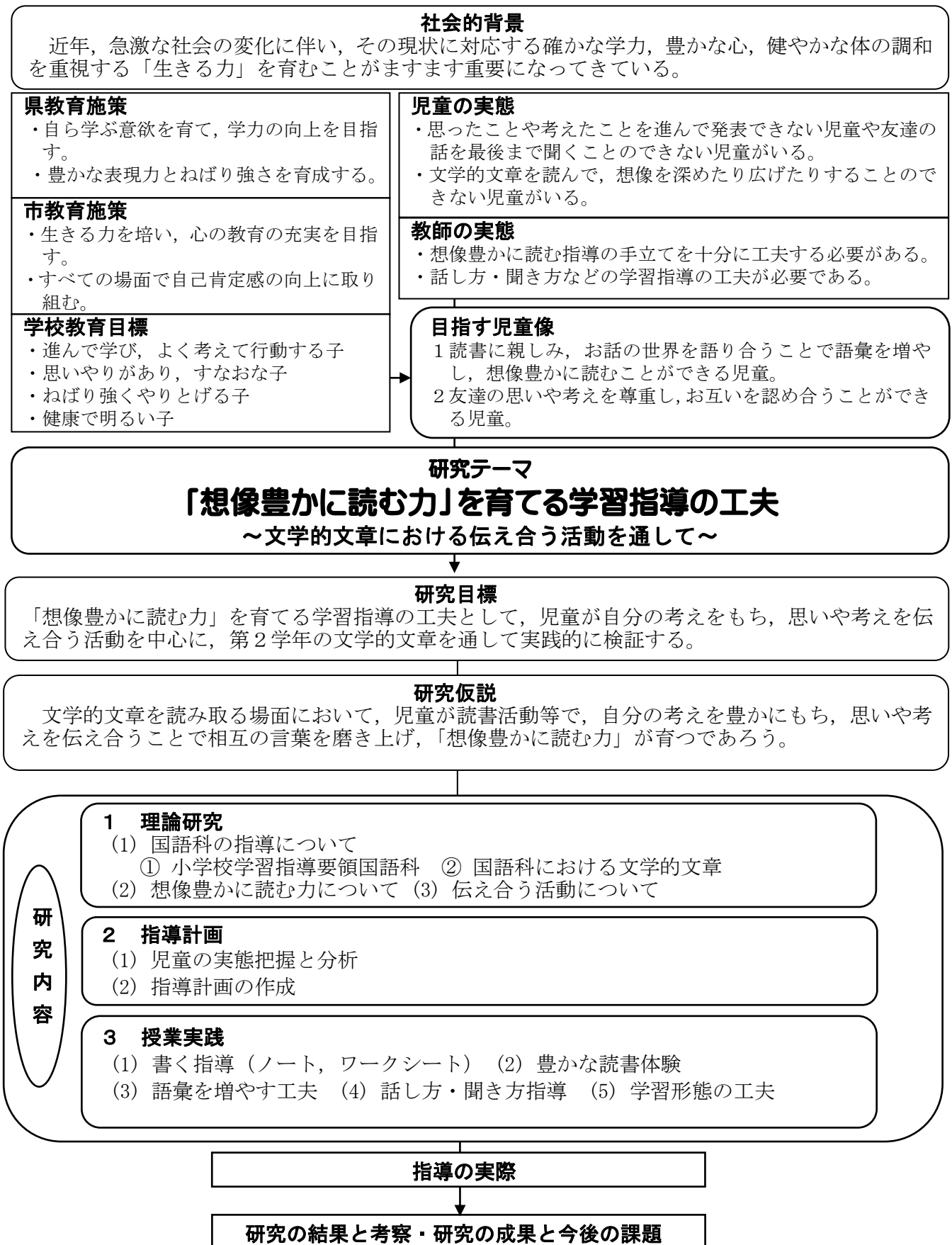
① 暗唱するほどの読み

国語科では、叙述を大切にしますが、叙述の細部と出会うために暗唱するほどの読みが必要である。全体と部分の関係、言葉と言葉の関わり、描写の細部など学年に関わらず音読が必要である。実際に声に出して読むことを大切にしたい。

② 読みの実態把握

文学的文章を読み込むことで、自分の中にお話のイメージが湧き、それぞれ表現していくようになる。一緒に歌うこともその一つである。

V 研究構想図



子どもたちの読みの反応を、絵に描かせることやペープサートで表現させること、動作化などは、子どもの読みの状態を把握し、適切な指導に繋げることができる。

③ 深い読み

文章を読んで思ったことや考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付いたりすることは重要な活動である。これも、子どもたちの様々な読みが認められてこそ生き生きとした学習活動となる。こうした活動から、もう一度自分の読みを振り返り、深め、更に広げていく深い読み取りが、「想像豊かに読む力」に繋がる。

④ 読みの発信

読み取ったことをみんなで書いたり、話したり、あるいは保護者や地域の方に伝える。その後、他の人から感想をもらったり、評価してもらったりして初めて自分のものになるのだと考える。保護者から感想をもらうことができるよう家庭と連携して意欲に繋げるようにする。「解釈→自分の考えの形成→交流」までが読むことのプロセスである。他者に発信することを意識して感想を書かせると主体性が増す。

⑤ 読書活動

吉永幸司 他（2011）は、読み聞かせの効果を次のように述べている。

読み聞かせを続けることで、「聞く力が育つ、言葉が増える、豊かな心が育つ」と述べている。聞く力が育つと、言葉から場面のイメージを描けるようになり、絵の助けを借りながら慣れていくうちに、絵がなくても想像できるようになるのである。

また、絵本を読み聞かせていくうちに、面白い言葉に興味を持ち、日常生活に絵本の言葉が出てきたり、日頃の生活の場面で読み聞かせで聞いた言葉が子どもたちから出てきたりすることがある。言葉の響きに敏感に反応して、ふとした拍子に歌のように出てくることもある。知らず知らず言葉が増えると共に、言葉に磨きがかかっていく。絵本の中には、冒険したり、失

敗したり、笑ったり、泣いたりなど様々な体験が描かれている。本の中では子どもが現実の世界では、経験できないようなことが次々と起こる。登場人物に共感したり、反発したりしながら、いろいろな考え方、生き方があることに気付いていく。そのような経験が「想像豊かに読む力」に繋がるものと捉える。

読み聞かせは、続けることで効果が見えてくるので、季節や教科などとも関連させながら意識して取り入れていきたい。

日本子どもの本研究会編（1988）は、読み聞かせをする時の大切なポイントを「読むタイミングを考える」「希望者には本を貸し出す」「歌にはふしをつける」「いろいろなジャンルの本を読んであげる」「子どもが選んだ本も大切にする」と述べている。

以上のことから、日々の読書指導は、語彙を増やす視点で最も効果的である。

(3) 伝え合う活動について

小学校学習指導要領解説国語編（2008）によると、伝え合う力とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら適切な言葉で表現し、正確に理解する力であると示されている。伝え合う活動とは、この伝え合う力をふまえ、想像豊かに文学的文章を読むために取り入れた音読発表会や感想紹介、語り合う活動などの交流と捉える。

伝え合う活動では、ペアやグループ、全体へと集団の規模を広げていく。小集団のリラックスした中で、自分の思いや考えを伝えることが、発表に抵抗のある児童にとっての手立てにもなる。学級全体の読みの交流は、「お話さんぼ」を通して、児童同士が思いや考えを自由に伝え合えるようにする。

文学的文章の感想を伝え合う場面では、①自分の考えをしっかりとつ ②自分の考えの根拠をはっきりさせる ③友達の考えやその根拠を自分の感想と比べながら考え、自分の感想を深めたり広げたりする。

想像豊かに読むために、お話の世界を深めた

り広げたりする活動には、教材と関連したお話を読んだり、シリーズもののお話を読んだりして、イメージを深めることが大切である。その後、お話について思ったことや考えたことを語り合う活動を取り入れる。また、これまで気付かなかった表現や、美しい文章表現を授業の中で取り上げることも必要である。

以上の活動を通して、自分の言葉を豊かにもち、語彙を増やしたり言葉の感性を磨いたりすることができるものと捉える。このように、文学的文章における伝え合う活動を通して、「想像豊かに読む力」が育つものとする。

2 指導計画

(1) 児童の実態把握と分析

① 国語に関する意識調査

ア 調査目的

児童の国語に関する意識や課題を調査し、研究の資料として役立てる。

イ 調査方法

(ア) 質問紙法

(イ) 調査日 平成 23 年 11 月 7 日 (月)

(ロ) 調査対象 宮里小学校 2 年 6 組

男子 11 名 女子 16 名 計 27 名

ウ アンケート調査結果と考察

質問 1 国語の勉強は好きですか。

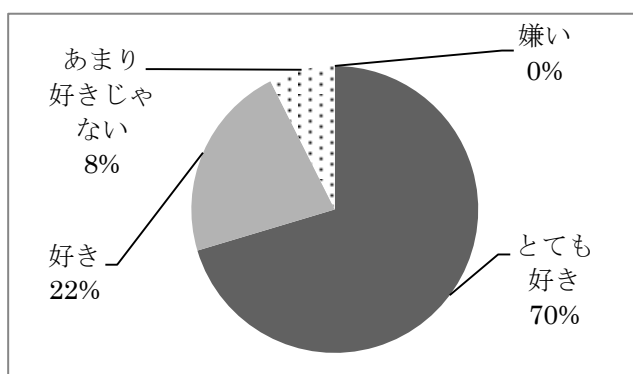


図 1 国語の勉強は好きか

[考察]

「国語の勉強は好きですか」の問いには、「とても好き」「好き」と答えた児童が全体の 92% で、国語に対する関心は高いと言える。「あまり好きじゃない」と答えた子は 8% で、その理由の一

つに、「読むのが嫌いだから」と答えた児童がいた。読みの楽しさを味わわせるための手立てを工夫する必要がある。

質問 2 読書は、好きですか。

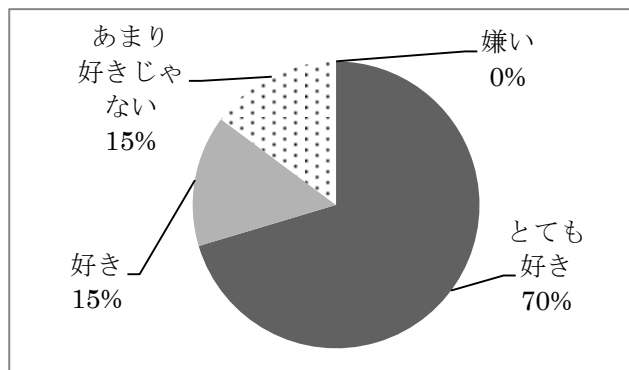


図 2 読書は好きか

[考察]

読書については、いろいろなことが分かるようになり楽しいと感じている児童は多いが、文の意味が分からなかったり、長い文章を読むことを嫌がったりする児童がいる。家庭学習で言葉の意味を調べさせたり、イメージをふくらませたりしながら楽しく読むことができるよう、読み聞かせなどを取り入れる。また、児童が選んできた本も積極的に取り上げたい。

質問 3 友達の発表を聞いて質問したり、感想を言ってあげたりすることができますか。

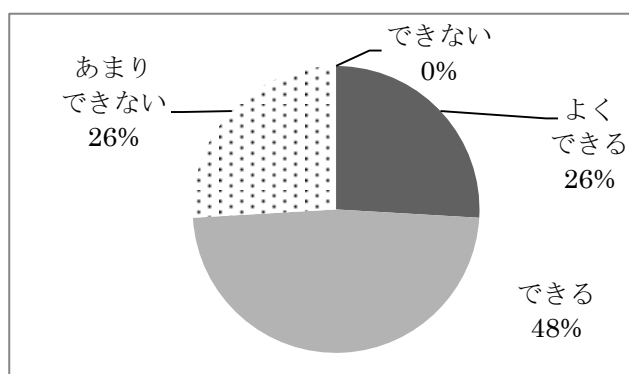


図 3 質問したり感想を言ってあげたりする

[考察]

「友達の発表を聞いて質問したり、感想を言ってあげたりすることができますか」という問いに、「よくできる」「できる」と答えた児童が 74% で、「あまりできない」と答えた児童は 26% い

る。質問の仕方を教えたり、感想の伝え方を指導する必要がある。また、聞く視点をしっかりと与えて聞く態度を身につけさせたい。

質問4 友達と話し合うことは好きですか。

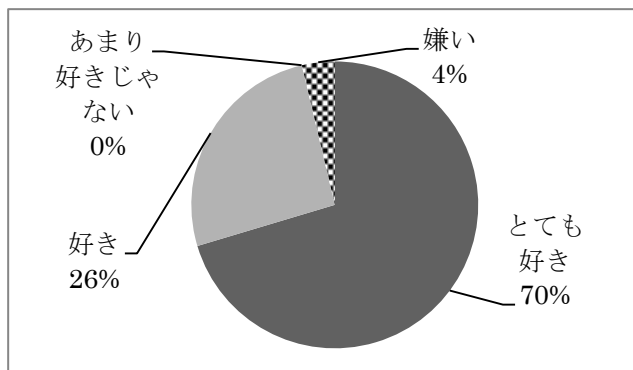


図4 友達と話し合う

[考察]

「友達と話し合うことは好きですか」という問いに、「とても好き」「好き」と答えた児童は、96%で、好んで伝え合う活動をしていることがうかがえる。「嫌い」と答えた児童1名にその理由を聞いてみると、「たまに嫌なことを言われるから」と答えていた。話し合いのマナーについても指導する必要がある。

質問5 本を読んで、自分の思ったことや考えたことを書くことができますか。

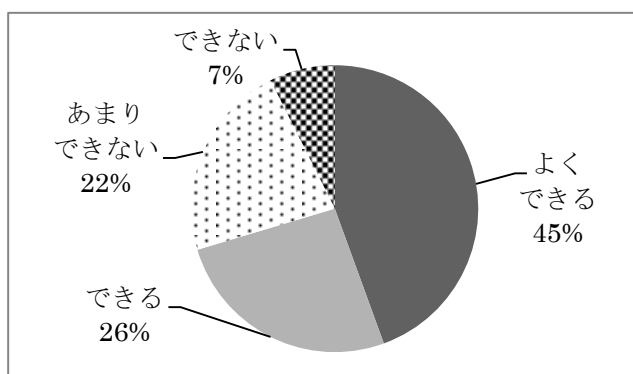


図5 自分の思いや考えを書く

[考察]

本を読むことは好きだが、自分の思いや考えを書くことが「あまりできない」「できない」と答えた児童が29%もいる。感想文に自分の思いや考えを入れて書くことができるよう丁寧に指導する必要がある。また、日常的な指導として

読書の後にミニ感想や日記に書かせるなど、書く活動を取り入れていく必要がある。

質問6 お話を想像しながら、読むことができますか。

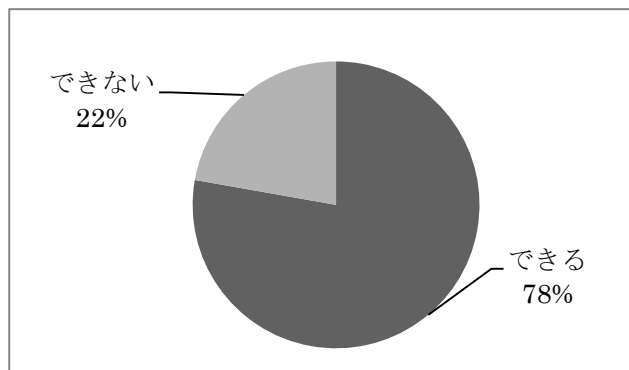


図6 お話を想像しながら読む

[考察]

「お話を想像することができる」と答えた児童は78%で、「できない」と答えた児童は22%である。お話のイメージを広げるために、主人公と自分を比べながら読んだり、関連した本の読み聞かせを継続する。また、読み聞かせの後に、お話について語り合う時間を持ち、自分の経験を話したり、聞いたりすることで読みの世界を広げる工夫が重要である。

[全体の考察]

アンケートの結果から、国語の勉強は好きな児童が多く、国語の学習に高い関心を示していることが分かる。また、読書の好きな児童も多く、特に物語や図鑑などを好んでいる傾向にある。これからも、読み聞かせを継続し読書に親しませるとともに、「想像豊かに読む力」を育んでいきたい。話し方・聞き方に関しては、友達の発表を聞く際の視点や適切な質問、感想の伝え方のポイントを指導していく必要がある。書くことに関しては、苦手意識をもっている児童が多いので、感想文の書き方を丁寧に指導していくことが大切である。読むことに関しては、想像豊かに読むことができるように読書活動を充実させる。自分の言葉を豊かにもち、伝え合う活動を通して語彙を増やし、想像豊かに読むことができるよう指導の手立てが必要である。

(2) 指導計画の作成

単元の指導計画（13 時間）

次	時	学習活動 ☆読みにせまる重要箇所	指導上の留意点 ☆読みのキーワード	評価規準【観点】評価（方法） ◆言語活動
第 1 次	1	①同年代の主人公が出てくるお話の読み聞かせを聞く。 ・「おこる」 ・「きみたちきょうからともだちだ」 ・「まあちゃんのながいかみ」	①お話の世界に浸って楽しく聞くようにさせる。 ・読み聞かせ後の語り合いをする。（伝え合い）	【関】等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら興味を持って聞いている。（観察） ◆物語の読み聞かせを聞くこと。【読むこと】(2)イ
		②「おねえさん」について自分が持っているイメージを書く。 ・「すみれちゃん」シリーズの読み聞かせ	②イメージを豊かにするために、「ことばの気球（図 8）」を使う。	【関】おねえさんについて自分のイメージをもつことができる。 （発言・観察・ワークシート）
	2	③学習の見通しをもち、初発の感想を書く。 ・すみれちゃんにお話しているように書く。	③初発の感想は、「吹き出し（図 9）」を使って書かせると、どの児童も取り組みやすい。	【関】等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら興味をもって読もうとしている。 （発言・観察・ワークシート） ◆物語を読んで、感想を書くこと。【読むこと】(2)エ
	3	④物語のあらすじをとらえる。	④教科書にサイドラインを引いてから、ワークシートにまとめさせる。	【読】時、場所、人物、出来事などに注意して、大体の内容を読み取っている。 （ワークシート）
	4	・「すみれちゃん」の紹介 ☆歌が好きな女の子 ☆元気な女の子 ・いつのこと ・できごと （伝え合い） ⑤調べたい言葉をチェックする。	・「文型カード（図 16）」を参考にして、発表させる。 ⑤「ことばの森（図 10）」のワークシートに調べて書かせる。（家庭との連携）	◆時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと。 【読むこと】(1)イ 【関】言葉に興味をもって言葉の意味を調べている。 （ワークシート）
第 2 次	5	⑥心に残った言葉や文を付箋紙に書き抜く。お話の順に並べて、友達との相違に気づく。	⑥一人一人の思いや感じ方を大切にしながら書かせる。 ・グループで、お話の順序に合わせて付箋紙を貼っていく。	【読】すみれちゃんの言動と自分とを比べながら、抜き書きをしている。（付箋紙） ◆文章の中の大事な言葉や文を書き抜くこと。 【読むこと】(1)エ

	6	⑦すみれちゃんの言動について の疑問を話し合う。	⑦自分の考えを書かせた後に 交流させる。(伝え合い)	【読】すみれちゃんの心の葛藤を 読み取っている。
	7	・もういちど、ノートを見 ☆「じっと。」「ずっと。」見 たすみれちゃんの気持ち。 →☆わらいだしたわけ。 ☆けしかけて、でもけすの をやめて、つぎのページを ひらいたわけ。	☆「この絵、何なの。」 ☆「このぐちゃぐちゃの絵が、 コスモスだなんて。何だか かりんちゃん、かわいい な。」	(発言・ワークシート・観察) 【読】すみれちゃんに同化し ながら、自分の考えを書い ている。(ワークシート) ◆場面の様子について、登場 人物の行動を中心に想像 を広げながら読むこと。
第 3 次	8	⑧すみれちゃんの言動でい ちばん心に残ったことを 付箋紙から選んで感想を 書き、友達の感想のよいと ころを見つけて意見交換 をする。	⑧自分ならどうするかを考 えて書かせることにより、自 分に引き寄せた読み方がで きるようにさせる。	【読むこと】(1)ウ 【言】主語と述語の関係に注 意している。(ノート)
	9 本 時	・「お話さんぽ」をする。 「おたずね」(質問)もする。 (伝え合う活動)	・書いた感想を家の人にも読 んでもらう。 (付箋紙に読んだ感想を書 いてもらう。)	◆文章の内容と自分の経験 とを結び付けて、自分の思 いや考えをまとめ、発表し 合うこと。 【読むこと】(1)オ
第 3 次	10	⑨二年生になってお姉さん、 お兄さんになったと思う ことを書く。	⑨登場人物に重ね合わせ、自 分が二年生になり変容した ことに気付かせる。	【書】成長した自分の思いや 考えを書いている。
	11	・発表し合う。 (伝え合う活動)	・発表し合うことにより、新 しい気づきが生まれる。	(ノート) ◆経験したことから書くこ とを決め、書こうとする題 材に必要な事柄を集める こと。【書くこと】(1)ア
	12	⑩登場人物にあてた手紙を 書く。(伝え合う活動) ・聞こえてくるすみれちゃ んの歌を想像して書く。	⑩すみれちゃんへの手紙を書 くことにより、自分の成長 にも気づかせる。	【読】すみれちゃんに共感 し、自分と比べながら書い ている。(ワークシート) ◆伝えたいことを簡単な手 紙に書くこと。
	13	⑪「すみれちゃん」シリーズ を読んで、感想交流をす る。(伝え合う活動) ・「すみれちゃん」 ・「すみれちゃんは一年生」 ・「すみれちゃんのあついなつ」	⑪お話の世界に浸って楽し んで読むようにする。 ・すみれちゃんが幼稚園生の 頃、妹のかりんちゃんが生 まれたことを知る。 ・漢字の練習をする。 (家庭学習とのリンク)	【書くこと】(2)オ 【関】「すみれちゃん」シリ ーズに興味を持って、楽し く読んでいる。(観察) ◆楽しんだり知識を得たり するために、本や文章を選 んで読むこと。 【読むこと】(1)カ

3 授業実践

想像豊かに読むために、「書く指導(ワークシート)」「ことばの気球、ことばの森」「豊かな読書体験」など、きめ細かな指導が必要になる。また、伝え合う活動を豊かにするために、「話し方・聞き方指導」や「学習形態の工夫」なども必要である。以下、その視点について述べる。

(1) 書く指導(ノート, ワークシート)

ノートには、毎時間「めあて」を書き、今日の学習を明確にする。本時の学習で使ったワークシートや付箋紙をノートに貼り、まとめる。「ふりかえり」で今日の学習をまとめ、自己評価と勉強の感想を書く。毎時間続けることで、学習の振り返りができる。

児童が、自分の考えをスムーズに書けるように工夫する。文学的文章を読む場面で、児童の豊かな想像を引き出すことができるように、吹き出しや挿絵を入れたりする。

書いた後は、「ゆびでみなおしくん(図7)」をして正しく丁寧に書けているか文章を見直す。

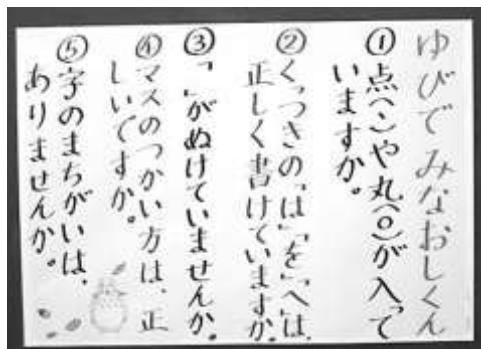


図7 ゆびでみなおしくん

① ことばの気球

イメージを豊かにするために、風船に「おねえさん」のイメージをどんどん書かせる。

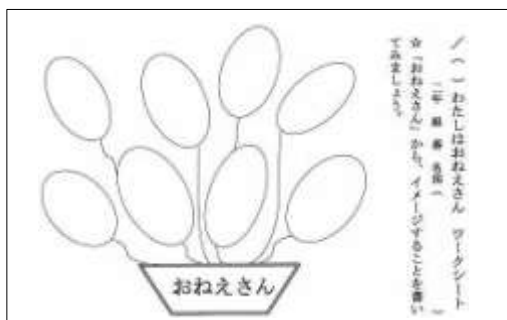


図8 ことばの気球

② 初発の感想

お話の人物(すみれちゃん)と自分を比べて、書く。すみれちゃんに言ってあげたいことを語りかけるように書く。どの子も取り組みやすいように、似顔絵をかき、自分から伝えたいことを吹き出し(図9)の中に自由に書けるように工夫する。楽しみながら書かせたい。

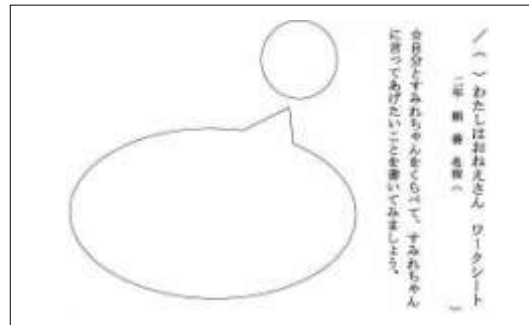


図9 吹き出し

③ ことばの森(家庭学習とのリンク)

教科書から、自分が選んだ言葉を調べてくる。辞典を使うことや、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんなどからインタビューする方法を教える。

調べてきた「言葉」は、あらかじめ教師が目を通しておき、国語の授業で取り上げ、調べてきた児童に発表させ、授業に生かす。授業で取り上げることで意欲につながり、進んで言葉を調べる習慣がつくものと考えられる。このような活動を通して語彙を増やし、「想像豊かに読む力」が育つものと思われる。



図10 ことばの森

(2) 豊かな読書体験

「想像豊かに読む」ためには、物語に出てくる登場人物の立場を考えたり、自分と比べながら読んだりすることが必要になってくる。場面の

様子をイメージするのに、毎日の生活や読書経験が重要となる。朝の読書や国語の授業で、読み聞かせを取り入れ、お話の世界に浸らせたい。季節のお話やシリーズもの、学習したことに関連した本などを継続して紹介する。

教師から児童への紹介だけでなく、児童から児童への読み聞かせも楽しい。子どもたちは、誰かに本を読んでもらうことが大好きである。自分で読むのとは違った声や雰囲気、読み手の世界でお話を聞くことをとても楽しみにしている。自分で読んで、お話の想像ができないという児童は、誰かに読んでもらうことからスタートすることも必要である。

豊かな読みを育むのに、学級で「ことばあそび」を取り入れていく。国語の時間に、導入で「発声練習」や「音読五十音」(図 11)、「早口言葉」,「詩の音読や群読」などを取り入れる。言葉の響きやリズムの楽しさに気付かせ、友達と声をそろえる心地よさを体験させる。

① 響きのある声を意識して、よい姿勢で声を出す練習をする。友達の声を聞きながら、声の調子を合わせる。

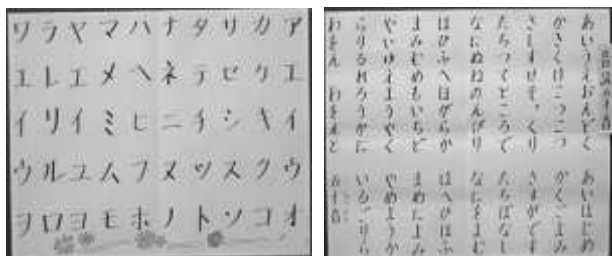


図 11 発声練習・音読五十音

② はっきりした声を出すため、口の形を意識させながら「お口の体そう (図 12)」をする。イメージしやすい表情豊かなイラストを掲示し、日常的に取り組む。



図 12 お口の体そう

③「早口言葉」は、徐々にスピードアップして楽しみながら声を出す。

④「詩の音読」は、「ひとり読み」をしたり、「みんな読み」をしたりして、声の響きを楽しむ。さらに、群読で一つの言葉を繰り返したり、声を重ね合わせたりすることで、音楽のような広がりをもたせることができる。

(3) 語彙を増やす工夫

自分の考えを深めたり、広げたりして想像豊かに読むため、語彙を増やす工夫が必要である。

家庭学習で、教科書から自分が調べたい「言葉」を選び、調べる。調べた言葉の意味を「ことばの森 (図 10)」にまとめてくる。言葉の使い方もお父さんやお母さんから聞いてくる。

日常的な指導として朝の会や帰りの会、お楽しみ会などで、クイズ大会をしたり、連想ゲームをしたりする。また、詩の音読・暗唱をして言葉の響きやリズムを楽しむ。

授業では、「ことばの気球 (図 8)」に一つの言葉からイメージする言葉をたくさん書かせる。書いたら、友達と聞き合ったり、教室に掲示したりして新しい言葉に触れる機会を多くもつ。

以上の活動に継続して取り組む。

(4) 話し方・聞き方指導

伝え合う活動を豊かにするために、話し方・聞き方の指導が必要になる。学級では、相手の立場を考え、全員が心を開いて交流することを大切にする。

自分の考えに、根拠をもって話すことができるよう話型指導を行い、自信をもって発表ができるように支援していく。また、「声のものさし (図 14)」を使って、場に応じた声の大きさを意識させる。すべての教科で話し方や聞き方の指導を行い、学習に生かす。

以下の学習資料を作成・掲示し、意識して活用していく。

① 学習に使う言葉・話型 (図 13)

学習に入る前に、全員で読み合わせをして、学習で使う言葉について、再確認する。声を出すことで発表がスムーズにできるようにする。



図 13 学習に使う言葉・話型

② 声のものさし

ペア学習の時は「1」、グループ学習の時は「2」、みんなの前で発表する時は「3」の声を意識して声の大きさを調整する。場にふさわしい声の大きさを話することができるようにする。



図 14 声のものさし

③ 話し方・聞き方 (図 15)

発表する時の話し方について学ぶ。聞く時は、話し手に体（おへそ）と耳、心を向けて聞く。常に、友達の発表の良さを見つけて聞くことができるように指導する。



図 15 話し方・聞き方

④ 文型カード (図 16)

お話の内容を友達に伝える時に、文型を示したカードを活用して、発表を助けるとともに、主語や述語についても丁寧に指導する。自信をもって発表ができるようにする。

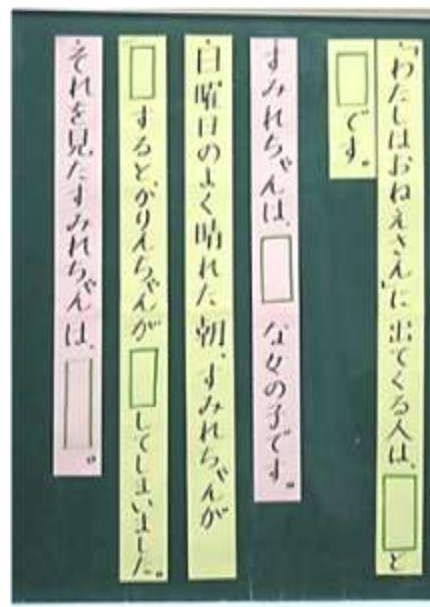


図 16 文型カード

(5) 学習形態の工夫

自分の思いや考えを相手に的確に伝え合う活動として、学習形態の工夫をすることがある。

ペア学習では、自分の思ったことや考えたことをリラックスして話することができるように工夫する。グループでの話し合いや「お話さんぽ」などの活動を取り入れ、友達と自分の考えを比べる。自分と友達の考え方の違いを知ること、読みを深めたり広げたりすることができる。安心して意見を交流させることが必要である。

低学年の児童は、学習に集中させ、活発に活動が行えるよう、意図的に体を動かす場面も作っていくことが必要である。ペア学習やグループ学習が、いったん終了したら黒板の前に集めるなどして、動きを入れた。おとなりの友達以外の友達を見つけて、自分の思いや考えを語り合ったりする活動として「お話さんぽ」を仕組む。このような伝え合う活動を通して、いろいろな考えに触れ、読みを深めたり広げたりすることに繋がる。

Ⅶ 指導の実際

1 実践事例

(1) 実践事例 1 【第 1 時】

ねらい 「おねえさん」から、イメージすることを書く。

活動内容

- ① 同年代の主人公が出てくるお話の読み聞かせを聞く。お話の主人公と自分とを比べながら、楽しく聞く。

表 1 読み聞かせた絵本

タイトル	作者	お話の内容
「おこる」	中川ひろたか	毎日おこられてばかりのぼく。同年代の児童に共感できる。
「きみたちきょうからともだちだ」	中川ひろたか	幼稚園に新入生が来た。学校生活の人間関係の理解が深まる。
「まあちゃんのながいかみ」	たかどのほうこ	たくさんの妹達に長い髪を手入れしてもらうお姉さんの心理。

- ② 兄弟姉妹について、語り合う。

写真

写真

- ・お姉ちゃんと一緒に仲良く料理することもあるよ。
- ・お姉ちゃんは勉強を教えてくれるよ。
- ☆生活体験を重ねることと語彙を増やす。

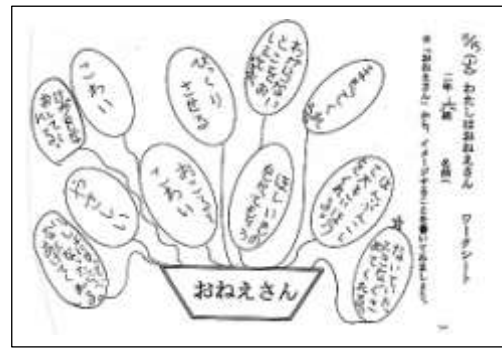
写真 1 読み聞かせ

写真 2 読み聞かせ後の語り合い

同年代の主人公が出てくるお話の読み聞かせを聞く。

お姉さんやお兄さんのいる児童に、家での様子を語らせ聞いている児童に質問させる。

- ③ 「おねえさん」について自分がもっているイメージを書く。



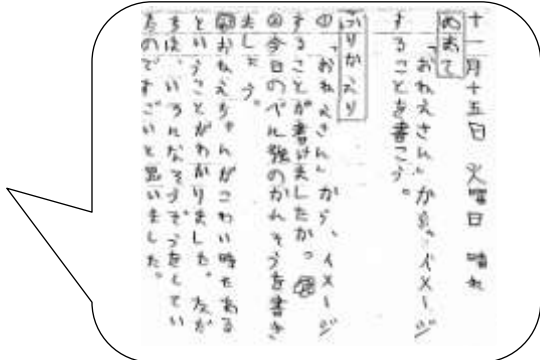


図 17 おねえさんからイメージすること

図 18 児童のノート (No. 1)

(2) 実践事例 2 【第 2 時】

ねらい お話の人物とわたし（ぼく）を比べながら読む。

活動内容

- ・ 学習の見通しをもち、初発の感想を書く。全員が取り組みやすいように、吹き出しを使って書

く。自分の生活を振り返って、すみれちゃんと自分とを比べながら書いていく。自分の似顔絵をかいて、すみれちゃんとお話しているように書く。

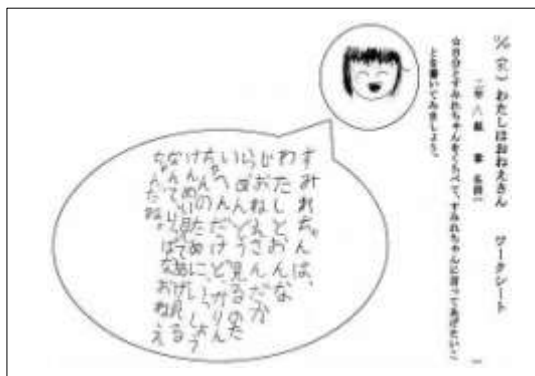


図 19 初発の感想

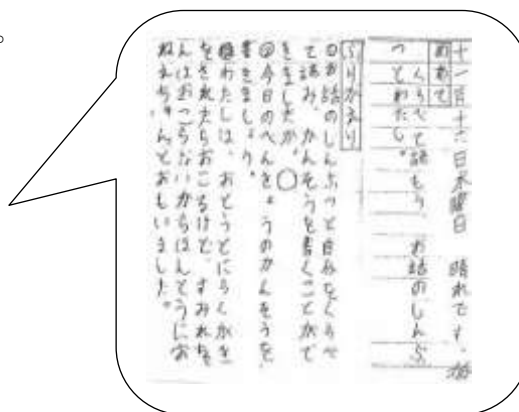


図 20 児童のノート (No.2)

(3) 実践事例3 【第3時・第4時】

ねらい すみれちゃんのお話を自分の言葉で伝える。

活動内容

- ・ あらすじをノートとワークシートにまとめる。

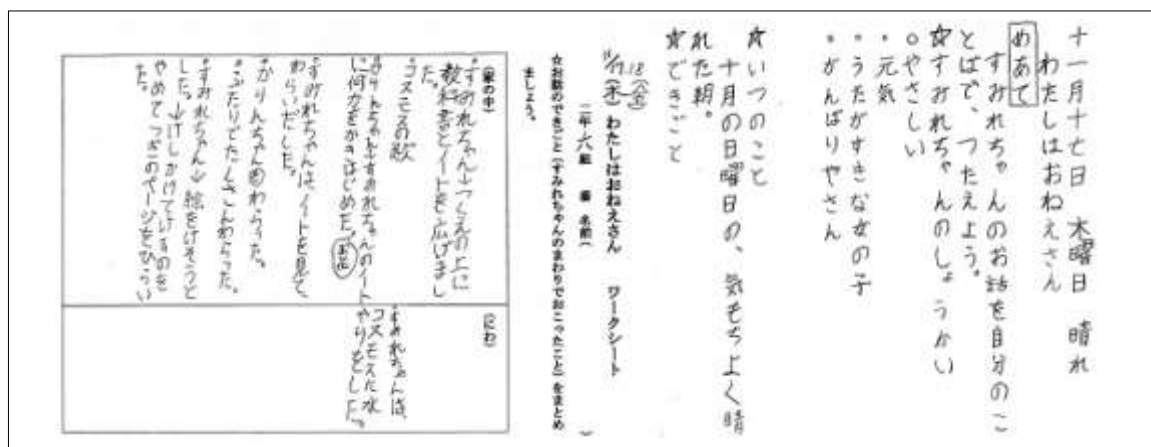


図 21 児童のノート (No.3 ワークシートをノートに貼る)

(4) 実践事例4 【第5時】

ねらい 心に残った言葉や文を見つけて書き抜く。

活動内容

- ・ 「わたしはおねえさん」を読んで、心に残った言葉や文を付箋紙に書き抜く (写真3)。お話の順に並べて、友だちとの相違に気づく。一人一人の思いや感じ方を大切にしながら書かせる。書いたら、グループでお話の順序に合わせて付箋紙を貼っていく (写真4)。



写真3 付箋紙に書き抜く



写真4 グループで付箋紙をお話の順に並べる



写真

(5) 実践事例5 【第6時・第7時】

ねらい すみれちゃんがしたことと、そのわけを考える。

活動内容

・ すみれちゃんの言動についての疑問を話し合う。自分の考えを書いた後に、交流する(図22)。

※ すみれちゃんの心の葛藤を読み取る場面

☆ もう一度ノートを「じっと。ずっと。」見たすみれちゃんの気持ち。その後、笑い出したわけ。

☆ けしかけて、でもけすのをやめて、つぎのページをひらいたわけ。

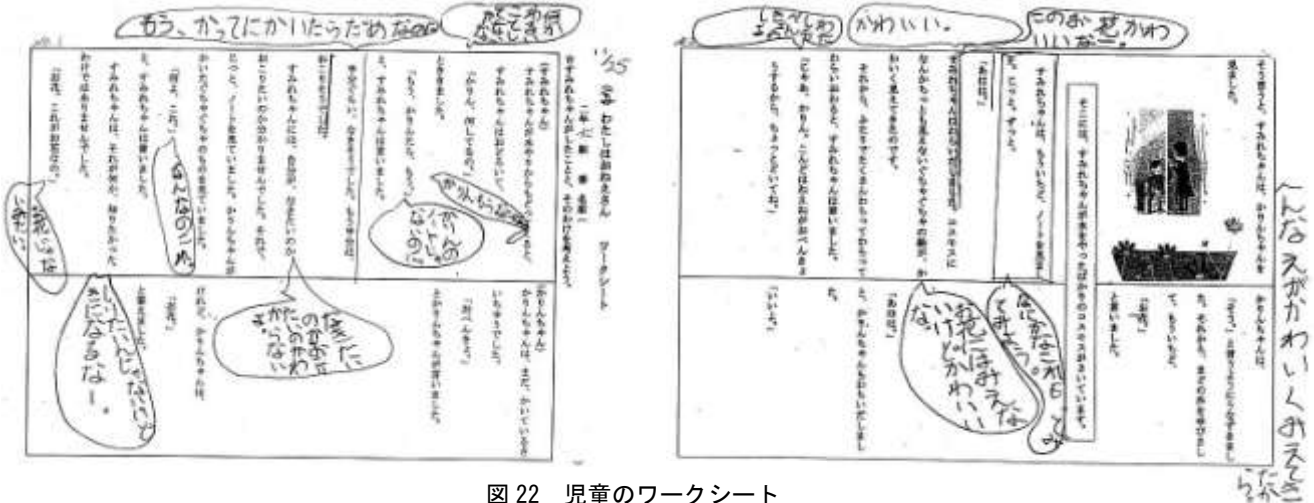


図22 児童のワークシート

表2 勉強の感想(6・7/13時間 児童のノートより)

A児	B児	C児
すみれちゃんのほんとうの 気持ちがよくわかりました。 「もういや」という気持ち やいろいろな気持ちが、わかり ました。	ぼくは、きょう、すみれち ゃんの気持ちがわかるよう に心の中で考えました。 すぐにうかぶことができ るようになりました。	すみれちゃんは、思いやりが あって、やさしいおねえちゃん でした。 がんばったことは、すみれち ゃんの声を聞くところでした。
※以上の勉強の感想から、文学的文章を想像豊かに読み取ったことがうかがえる。		

(6) 実践事例6 【第8時】

ねらい すみれちゃんのしたことや言ったことについて、自分と比べながら感想を書く。

活動内容

- ① 「すみれちゃん」シリーズの読み聞かせを聞く(写真5)。
- ② すみれちゃんの言動で、一番心に残ったことを自分で書いた付箋紙から1枚選ぶ(写真6)。
ピンクの付箋紙に書き写す(写真7)。ノートに「選んだわけ」や「自分と比べて」をメモする。



写真5 シリーズ本の読み聞かせ



写真6 3枚の付箋紙から選ぶ



写真7 選んだ付箋紙を書き写す

2 公開検証授業指導案

国語科学習指導案

平成 23 年 11 月 29 日（火）2 校時
沖縄市立宮里小学校 2 年 6 組
男子 11 名 女子 16 名 計 27 名
授業者 渡嘉敷 艶子

(1) 単元名 お話のじんぶつと自分をくらべて読もう

(2) 教材名 「わたしはおねえさん」

(3) 単元の目標

- ◎ 登場人物の行動や場面の様子から想像を広げながら読み、自分の経験と結び付けて、感想をもつことができる。
- 今の自分と過去の自分とを比べて、文章を書くことができる。

【読(1)ウ・エ・オ、書(1)ア、伝国(1)イ(カ)】

(4) 単元について

① 教材観

この単元は、文学的文章の「わたしはおねえさん」を読み、自分の経験と比べて感想を書く学習と自分が成長したことを書く学習、「本は友だち」で構成されている。低学年の児童は、登場人物に自分を同化させやすい。この作品は、登場人物の行動を中心に場面の様子を想像し、自分と比べながら読みを進める学習として、格好の教材である。主人公は、児童と同じ2年生のすみれちゃんである。すみれちゃんの行動や彼女を取り巻くちょっとした事件は、実際に似たような体験をしている児童も多いと思われる。話の展開がコミカルな雰囲気、とても明るい。自分の行動を振り返りながら主人公に共感し、楽しく読み進めていくことができる。この学習を機会に同年代の主人公が登場する他の本も読み、豊かな読書体験へと結び付けていきたい。

② 児童観

学級の児童は、読書が好きで読み聞かせを楽しみにしている。授業に関連した絵本や図鑑などを家や図書室から持ってきて紹介したり、調べてきたことをお話したりして読書に意欲的である。文学的教材の「ふきのとう」では、役に分かれて音読したり、動作化したりしてイメージを広げながら楽しく読み取りをした。しかし、言葉一つ一つにこだわったり、丁寧に読み取ったりする活動はまだ不十分である。

アンケートの結果からみると、国語の勉強は92%の児童が好きで、「読むこと」や「書くこと」に関心をよせていることが分かる。また、日頃から読書に親しんでいて、家や学校で絵本や図鑑をよく読んでいる。しかし、読み聞かせや友達の話聞くことは好きだが、みんなの前で発表することが「あまりできない」「できない」と答えた児童は30%、友だちの発表を聞いて質問したり、感想を言ったりすることが「あまりできない」と答えた児童は、26%であった。「書くこと」については、日記や

作文を書くことは好きだが、本を読んで自分の思ったことや考えたことを書くことについては、29%の児童が「あまりできない」「できない」と答えている。

また、友達と話し合うことは、一人を除いて全員が「とてもすき」「すき」と答えている。78%の児童は、「お話を想像しながら、読むことができる」と答えているが、22%の児童は、「お話の想像ができない」と答えている。みんなの前で発表するときに気を付けていることは、「まちがえないようにすること」「大きな声を出すこと」と多くの児童が答えている。友だちの話を聞くときに気を付けていることは、「静かにする」「姿勢を正す」「聞き落とさないようにする」と、ほとんどの児童が答えており、発表するときや話を聞く時の心構えは意識していることがうかがえる。更に、話の聞き方指導とともに、想像豊かに読む指導の工夫が必要と考える。

③ 指導観

読書に親しませることや物語を想像豊かに読むことができるよう、4月から読み聞かせを取り入れてきた。読み聞かせの後に、お話の内容について感想を伝え合ったり、自分の経験と結び付けてお話をしたりして、お互いに聞き合うことも体験している。

また、語彙を増やす手立てとして、自分が調べたい言葉を「ことばの森」のワークシートに書く家庭学習を取り入れ、授業に生かす工夫をしている。

2年生の文学的文章では、「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」また、目的に応じた読書として、「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」を指導する。以上のことから、想像豊かに読むため、伝え合う活動や語彙を増やすための学習活動の工夫を図りたい。そのために、この教材を通して児童に楽しい文学的文章の「読み」を体得させると同時に、豊かな読みの力を育てる以下の手立てを取り入れていく。

ア ことばあそび

毎時間、導入で「発声練習」や「早口言葉」、「詩の音読」などを取り入れ、言葉の響きやリズムの楽しさに気づかせ、友達と声をそろえる心地よさを体験させる。

- ・ よい声を出すために、よい姿勢で声を出す練習をする。
- ・ はっきりした声を出すため、口の形を意識させながら「お口の体そう（図12）」をする。
- ・ 「早口言葉」は、徐々にスピードアップして楽しみながら声を出す。
- ・ 「詩」の音読は、「ひとり読み」をしたり、「みんな読み」をしたりして声の響きを楽しむ。

さらに、群読で一つのことばを繰り返したり、声を重ね合わせたりすることで、音楽のような広がりをもたせることができる。

イ 話し方・聞き方指導

自分の考えに根拠をもって話すことができるよう、話型指導をする。自信を持って発表ができるよう支援していく。声のものさし（図14）を使って、場に応じた声の大きさを意識させる。

自分が好きな果物について、その果物の特徴を表すことばをクイズにして、あてっこしたり好きなスポーツについて「なぜ、そのスポーツが好きか。」理由を述べさせたりしながら話す活動を行う。

ウ 読み聞かせ後の語り合い

読み聞かせの後に、お話について語り合う時間を持ち、自分の経験を話したり、聞いたりすることで、読みの世界を広げる。

以前に、教師が読み聞かせをしたシリーズものの本や、学習に関連した本を児童が図書室や家から持ち寄り、お互いに紹介し合う。

エ 物語のイメージをもつ

題名の「おねえさん」からイメージすることをたくさん書いていく（ことばの気球・図8）。児童の生活経験を通して、自由にたくさん引き出していきたい。友達の考えを聞くことにより、さらにイメージが広がる。このような活動が主体的な読みへ導いていくものと思われる。

オ ワークシートの工夫

児童が自分の考えをスムーズに書けるように工夫する。文学的文章を読む場面で、児童の豊かな想像を引き出すことができるように、吹き出しや挿絵を入れたりする。

カ 語彙を増やす工夫

自分が調べたい「言葉」を選び、家で調べてくる。家族にインタビューして聞いたり、辞典で調べたりする（ことばの森・図10）。学習の中で、調べてきた言葉について発表させたり、生活経験を語らせたりすることで、生活の中の言葉をより身近なものにする。

キ 文型カード

お話の内容を友だちに伝える時に、「おたすけカード」として文型を示したカード（図16）を黒板に貼り、発表を助ける。

主語や述語について、丁寧に指導する。

ク 吹き出し

登場人物の気持ちに寄り添うことができるように、すみれちゃんの挿絵や本文に吹き出しを入れて言葉を考える。登場人物になりきることで、より想像豊かに読み深めることができると考える。

(5) 単元の評価基準

	国語への 関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
A (十分満足できる)	等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験と重ねたり、想像を広げたりしながら、進んで読もうとしている。	場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら、読み取っている。(1) ウ 心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験と結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表する。(1) エ・オ	経験したことや想像したことなどから書くことを決め、必要な経験を思い出して、書くことを決めている。(1) ア	主語と述語の関係に注意して、進んで読んだり書いたりしている。 (1) イ (カ)
B (おおむね満足できる)	等身大の人物が描かれた物語を、自分の体験や気持ちと重ねながら興味をもって、読もうとしている。	時、場所、人物、出来事などに注意して、大体の内容を読み取っている。(1) ウ 心に残った言葉や文を書き抜き、自分の経験を思い出して、登場人物と似ているところや近いところ、違うところを比べている。(1) エ・オ	身の回りの出来事、経験を思い出して、書くことを決めている。(1) ア	主語と述語の関係に注意している。(1) イ (カ)

努力を要する児童への手立て	自分の身近なことを思い出しながら読むことができるように、読み聞かせをして関心をもたせる。	場面の様子や人物の行動に線を引いたり、一緒に読んだりする。 お話をしながら、子どもの経験を引き出し、登場人物と比べる。	一対一で語りかけをしながら、これまでの経験を引き出す。	主語と述語の関係に気づかせるよう語りかけながら読んだり、書いたりできるようにする。
---------------	--	--	-----------------------------	---

(6) 単元の位置づけ（1年～3年の文学的教材）

1 年	2 年	3 年
「はなのみち」 ・ くまさんのしたことを読む。	「ふきのとう」 ・ 役に分かれて工夫して音読する。 ※「人物」が初出。	「きつつきの商売」 ・ 音読する。
「おむすびころりん」 ・ リズムにのって楽しく読む。	「スイミー」 ・ 人物の行動や場面の様子などについて、想像を広げながら読み、感想を書く。	「海をかつとばせ」 ・ 読んで、考えたことを発表する。
「おおきなかぶ」 ・ 声に出して読む。	「本は友だち」「黄色いバケツ」 ・ 人物に言ってあげたいことを書く。 ・ 登場人物の行動に着目し本を紹介する。	「ちいちゃんのかげおくり」 ・ 物語の感想をまとめる。
「ゆうだち」 ・ お話を楽しむ。	「お手紙」 ・ 人物の行動や会話に注意して、声の出し方を工夫し、音読劇をする。	「三年とうげ」 ・ 民話や物語の組み立てを考える。
「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 ・ 本と友達になる。	「わたしはおねえさん」 ・ 文章の内容と自分の経験を結びつけて感想をもつ。 ・ 楽しんでお話を読む。	「モチモチの木」 ・ 物語を読んで紹介する。
「たぬきの糸車」 ・ お話を楽しむ。	「スーホの白い馬」 ・ 人物の行動を中心に想像を広げながら読み、自分の感想をもとに、あらすじを入れて、物語を紹介する。	
「だってだっておばあさん」 ・ 好きなところを探して読む。		

(7) 本時の指導（9／13 時間）

① ねらい

すみれちゃんの言動について、自分の経験と比べながら読み、感想を書くことができる。

② 授業仮説

感想を書く場面において、心に残った言葉や文を書き抜いた付箋紙を活用することにより、自分の経験と比べながら読み、楽しみながら感想を書くことができるであろう。

③ 展開

	学習活動	予想される児童の反応	教師の支援・留意点【評価】 ◆言語活動 ☆市学対の三観点
導入	1 言葉遊びをする。 2 前時までの学習を振り返り 本時の学習のめあてを知る。 めあて すみれちゃんのしたことや言ったことについて、自分とくらべながらかんそうを書こう。	・全員で詩の群読をする。 ・「じっと。ずっと。」という言葉が心に残りました。	「いるか」 谷川俊太郎 ・「すみれちゃん」シリーズなどを読み聞かせしたことによって、児童のイメージがふくらむようにしたい。 ☆存在感（意欲的に全員が参加した授業の工夫）
展開	3 選んだ付箋紙の言葉や文について自分の考えを書く。 ・わけ→わたし（ぼく）も、同じようなことがあったからです。 ・くらべる→わたし（ぼく）だったら・・・。 4 感想文を書く。 ①心に残ったこと ②心に残ったわけ ③自分と比べる 5 友だちと交替して感想文を聞き合う。 ・ペア→お話さんぽ（聞き合う） ↓ おたずね（質問する） ・みんなの前で紹介（発表する） ↓ （伝え合う活動）	・わたしも前に、同じようなことがありました。 ・わたしは、「わたしはおねえさん」を読んで、「半分くらいなきそうでした。もう半分は、おこりそうでした。」というところが、心に残りました。なぜかという、わたしにも同じようなことがあったからです。 自分の体験を書く。 ↓ わたしの家に、3才のいところが、あそびに来たときに、ねん土で作ったきょうりゅうをぐちゃぐちゃにこわしていました。それを見てわたしは、半分くらいなきそうでした。もう半分はおこりそうでした。 でも、わざとじゃないから、ゆるしてあげようと思いました。	【読】自分の経験を思い出して登場人物と比べながら読んでいます。（記述・発言） ☆有用感（自分の考えや根拠を書かせる。） 【言】主語と述語の関係に注意している。（ノート） ・すみれちゃんの言動についてすみれちゃんに話しかけるような形で書かせると、自分の思いを表現しやすくなる。考えの理由も書かせる。 ◆文章の内容と自分の経験を結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。 【読むこと】（1）オ ☆存在感（授業形態の工夫） ☆有用感（お話さんぽを通しての学び合い）

まとめ	6 学習を振り返る。 (1) 自分と比べながら感想を書くことができたか。 (2) 今日の勉強の感想 【家庭学習へのつなぎ】	・難しいと思ったけど、「文型カード」があったから書きやすかったです。 ・書いた感想を家の人にも知らせたいです。 ※家族からの感想を付箋紙にもらう。	・次時は、自分の成長を振り返り、小さい頃と比べてできるようになったことについて書くことを知らせる。 ・自分の成長について、家族で語り合わせる。 ☆有能感（授業と家庭学習との連動）
-----	---	--	--

④ 評価

すみれちゃんの言動について、自分の経験と比べながら読み、感想を書くことができたか。

(ノート・発言)

⑤ 板書計画

十一月二十九日 火曜日 晴れ わたしはおねえさん めあて すみれちゃんのしたことや言ったことについて、自分とくらべながらかんそうを書こう。				かんそう文	心にのこったこと	心にのこったわけ	自分とくらべる	ふりかえり
わたしは、「わたしはおねえさん」を読んで、(付箋紙の文)というところが、心にのこりました。				なぜかというところ、わたしにも同じようなことがあったからです。	わたしがしたこと	①すみれちゃんと自分をくらべながら、かんそうを書くことができましたか。 ②今日のぶんきょうのかんそう すみれちゃんと自分のことをくらべながら、かんそうを書くことができたのでうれしかったです。		

児童の心に残った言葉や文
(児童が選んだ付箋紙から)

すみれちゃん、ふだにからけしゴムを出して、かりんちゃんがかいた絵をけそうとしました。けしけすみれちゃん、ふだにけしけをひらきました。(55ページ行目)

半分くらいなぞって、もう半分はおこりそうでした。(55ページ行目)

すみれちゃん、もういちどノートを見ました。じつと、57ページ行目を見。

⑥ 「わたしはおねえさん」学習計画（児童用）

⑬	⑫	⑪ ⑩	⑨ ⑧	⑦ ⑥	⑤	④ ③	②	①	めあて	「わたしはおねえさん」学しゆうけいかく
「すみれちゃん」シリーズの読み聞かせをしてもらったり、自分で読んだりしよう。 ・すみれちゃん ・すみれちゃん ・すみれちゃんのあついなつ ※ほかの絵本もたくさん読んでいく。	すみれちゃんに、お手紙を書こう。 ・聞こえてくるすみれちゃんの歌を書いてみよう。	二年生になって、おねえさんになったな、おにいさんになったなと思うことを書こう。	すみれちゃんのしたことや言ったことについて、自分とくらべながらかんそうを書こう。	すみれちゃんがしたこと、そのわけを考えよう。	心にのこったことばや文を見つけて書きぬこう。	すみれちゃんのお話を自分のことばで、つたえよう。	くらべて読もう、お話のじんぶつとわたし（ぼく）。	「おねえさん」からイメージすることを書こう。	すみれちゃんと自分をくらべて読んだり、書いたりしよう。	

公開検証授業の様子

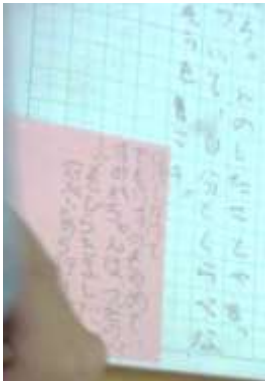


写真8 付箋紙の活用



写真10 児童のよいノートを紹介

写真

選んだ付箋紙の言葉や文について自分の考えを書く。

- ① 心に残ったこと（始め）
- ② 心に残ったわけ（中）
- ③ 自分と比べる（終わり）

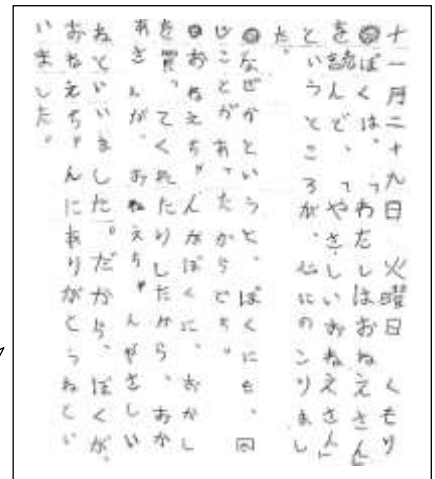
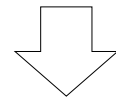


図23 感想を書き終わったノート

写真

上記三つの「始め」，「中」，「終わり」の三段落構成で書かれたノート（児童が書いた感想文）

写真9 思考する場面

〈伝え合う活動（ペア学習，お話さんぽ，みんなに紹介）〉

写真

写真

書いたらとなり
の友達と交替で、
聞き合う。

聞いたら、おた
ずね（質問）をす
る。（ペア学習）

写真 11 ペア学習の様子

写真

写真

写真

写真 12 次の活動の説明

写真 13 お話さんぽの様子

となり同士聞き合ったら、黒板の前に集合させる。
(次の活動の説明をする。)

友達の発表を聞いたら、
おたずねをする。2～3名
ぐらいに聞いてもらう。

はきはきしながら
言ってくれたの
で、分かりやすか
ったです。

写真

写真 14 みんなに紹介（発表する）

写真

写真 15 授業の振り返り

十一月二十九日 火曜日 くもり
 わたしは、わたしはおねえさま
 ん。を讀で、半分くらいなきそ
 うでした。もう半分は、おこりそ
 うでした。というところ、次々にの
 こりました。
 なげかというところ、わたしにも同
 じようなことがあつたからです。
 まだ、ふさいのいとこが、わた
 しのノートにだくがきをしていま
 した。半分くらいなきそうでした。
 もう半分はおこりそうでした。
 でも、わざとじやないから、ゆ
 るしてあげようと思ひました。

毎時間、授業の前に「めあて」を提示し、授業の終わりの「ふりかえり」では、めあての反省（自己評価）と、今日の勉強の感想を書く。

Ⅷ 研究の結果と考察

本研究テーマを『想像豊かに読む力』を育てる学習指導の工夫」と設定した。また、研究仮説を「文学的文章を読み取る場面において、児童が読書活動等で、自分の考えを豊かにもち、思いや考えを伝え合うことで相互の言葉を磨き上げ、『想像豊かに読む力』が育つであろう」とし、研究を進めてきた。

研究内容として、理論研究、指導計画、授業実践に取り組んできた。そこで、授業実践から見られた児童の変容やアンケート調査の結果から、研究仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

1 理論研究

(1) 国語科の指導について

「読むこと」の目標から、「想像豊かに読む力」「楽しんで読書しようとする態度」の育成の重要性とその理解が深まった。

(2) 想像豊かに読む力について

「想像豊かに読む力」について、理論研究を行い、読書指導や書く活動（ワークシート）など具体的な手立てを工夫した。読み聞かせや詩の暗唱、早口言葉などで言葉のシャワーを浴びせることにより「想像豊かに読む力」が育った。

(3) 伝え合う活動について

様々な伝え合う活動に取り組むことにより、児童の思いや考えを引き出すことができた。児童が自分の思いや考えをしっかりともち、交流ができるように書く活動を工夫し、どの児童も抵抗なく書くことができるよう配慮した。その上で、伝え合う活動がスムーズにいくように「お話さんぽ」などの学習形態を工夫した。

2 指導計画

(1) 児童の実態把握と分析

児童の国語の学習についての実態調査を行った結果、国語の勉強は好きな児童が多く、国語の学習に高い関心を示していることが分かった。また、読書の好きな児童も多く、「読むこと」に関しては、意欲の高いことが分かった。しかし、友達の発表に対して質問したり、感想を言って

あげたりすることや本を読んで、自分の思ったことや考えたことを書くことに苦手意識をもっている児童が多いという実態が明らかになった。相手に自分の思いや考えを伝え合う方法や、本を読んだ後の感想の書き方などを指導した。

そこで、授業実践から見られた児童の変容やアンケート調査の結果から、研究仮説を検証することにより、本研究の結果と考察とする。

① 国語に関する意識調査（授業前後の比較）

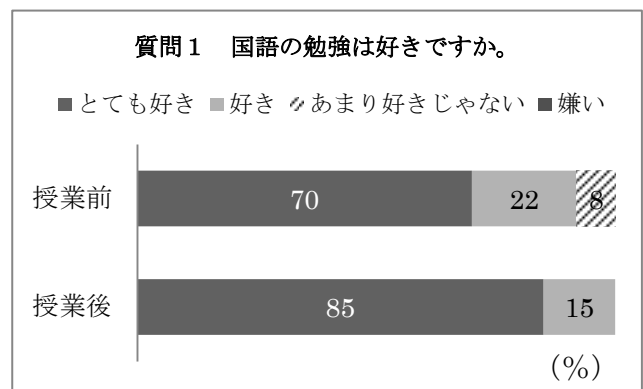


図 24 国語の勉強は好きか

[考察]

「国語の勉強は好きですか」という質問に対して「好き」と答えた児童が70%から85%に増えている。その理由に「読み聞かせが楽しい」「文章を書くのが好き」などがあつた。授業の中で、教材と関連した読み聞かせを行ったり、感想文の書き方を丁寧に指導したりすることで、自己有能感が高まったと考える。

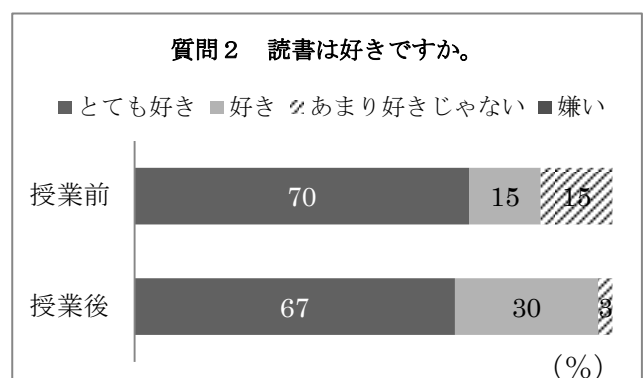


図 25 読書は好きか

[考察]

読書の好きな理由として、いろいろな「言葉」や「お話」が分かるからと答えた児童がいた。

授業の中で言葉の意味を調べたり，読み聞かせの後，お話について語り合いを入れたりした結果だと言える。これまで以上にお話の世界に入って読むことの楽しさを味わうことができるようになったからだ考える。

様々なジャンルのお話を紹介して楽しみながら読書する雰囲気をつくることが大切である。

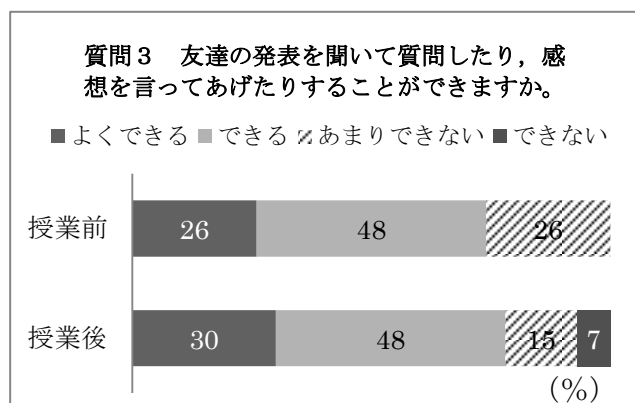


図26 質問したり感想を言ってあげたりする

[考察]

友達の発表を聞いて，感想を言ってあげることができないと答えた児童は7%いるが，友達の話の聞いたり，話し合ったりすることは「とても好き」と答えている。お互いを認め合う雰囲気はできているので，自信をもって思いを伝えることができるように励ましていく。

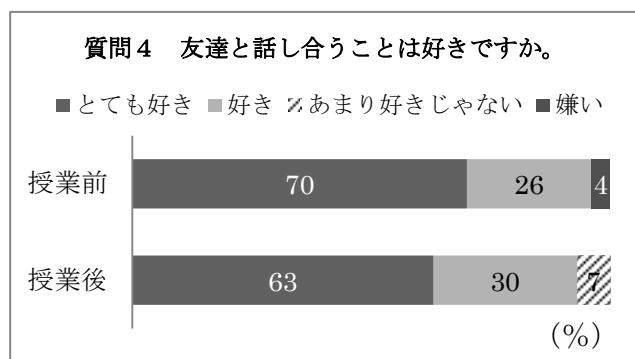


図27 友達と話し合う

[考察]

友達と話し合うことが嫌いな児童は減ったが，あまり好きじゃないと答えた児童は，「相手の言っていることよく分からない」「話し合うことは苦手」と答えている。聞き方のポイントを示し，自分の意見をしっかりとって話し合いに参加できるようにすることが大切になる。

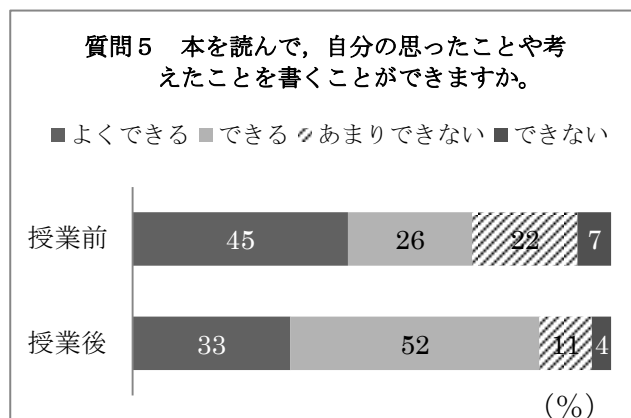


図28 自分の思いや考えを書く

[考察]

感想文の書き方を指導することで，自分の思ったことや考えたことを書くことができるようになった児童が増えた。自分で，「できない」と答えている児童も書くことはできているが，自己評価において厳しいことが分かった。学ぶことによって，自己評価が厳しくなっており，これも学習の質の向上だと捉えている。併せて，よくできることを褒め，自信をもたせたい。

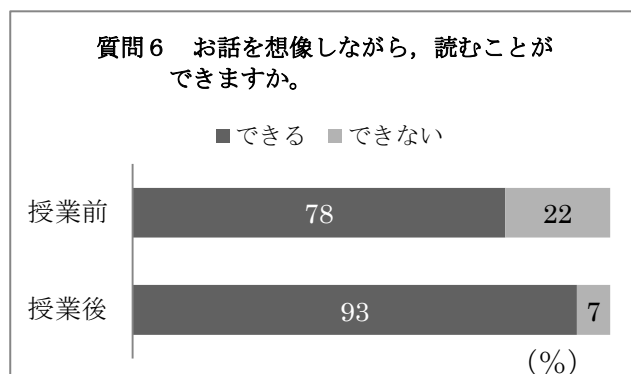


図29 お話を想像しながら読む

[考察]

「お話を想像しながら読むことができる」と答えた児童が増えた。イメージを広げるために，教科書の主人公が出てくる別の本を読み聞かせたり，読み聞かせの後に語り合う時間をもったりすることで，想像しながらお話を読むことができるようになったものと思われる。

本研究の一番に強調したい読書活動は，「想像豊かに読む力」をつけるために，やはり有効であると捉える。

② 単元終了後の児童の声

『わたしはおねえさん』の教材で、登場人物の気持ちを想像したり、自分と比べたりしながら楽しく読むことができましたか」という問いに全員が「よくできた」「できた」と答えていた。関連した本を読み聞かせたり、姉妹について語り合いを入れたりすることで、より具体的にイメージすることができたと考える。

伝え合う活動では、「ペア学習」や「お話しなぽ」,「みんなの前で発表する」活動も、全員が「よくできた」「できた」と答えていた。少人数から段階的に、伝え合う活動を取り入れることで、安心して自分の意見を伝えることができたと言える。それが自信につながり、みんなの前で進んで発表することに繋がったと考える。

また、学習を終えて、16名の児童が「お話の想像ができるようになった」「すみれちゃんとかりんちゃんの気持ちを考えながら学習をした」という感想を書いていた。ワークシートや吹き出しの活用などイメージを引き出す手立てを工夫することにより、お話を想像しながら楽しむことができるようになった結果だと考えられる。

③ 「読む能力」の実態調査(授業前後の比較)

表3 「読む能力」の実態調査

単元名	平均点
ふきのとう	87 点
たんぽぽのちえ	90 点
スイミー	88 点
黄色いバケツ	83 点
動物園のじゅうい	85 点
わたしはおねえさん (12/7)	95 点

検証授業前の読み取りテスト「ふきのとう」「たんぽぽのちえ」などより、検証授業後の「わたしはおねえさん」の読み取りテストが良い結果となった(表3)。これは、関連した本の読み聞かせや、相互に思いや考えを伝え合うなど、想像豊かに読むための学習指導の工夫によるものだと考える。しかし、問いに対して言葉が抜けていたり、読み間違いをしたりしている箇所

のある児童がいるので、丁寧な読みができるように継続して指導していく必要がある。

(2) 指導計画の作成

読み聞かせや書く活動を取り入れた単元の指導計画を作成することによって、単元のねらいや学習の進め方が明確になり、授業実践に生かしていくことができた。

3 授業実践

(1) 書く指導(ノート、ワークシート)

「想像豊かに読む力」を育てるために、ノートには毎時間「めあて」と「ふりかえり」を書き、自分の読みを振り返り、深めることができるようにした。また、「上手に感想文が書けるようになりました」という感想があり、感想文の書き方を三段落構成で丁寧に指導した成果がでたと考える。

「心に残ったことを書くと、だんだんすみれちゃんとかりんちゃんのことをよく分かるようになってきました」という児童の言葉から教科書を何度も読み、書く指導により、自分の思いや考えを整理していくことができたと考える。

以上のことから、読みを深めたり広げたりすることで、想像豊かに読むことができ、書く指導は想像豊かに読むために有効であると言える。

(2) 豊かな読書体験

想像豊かに読むために、読書の経験を積んでいけるようにし、教材と関連した同一作者の絵本などを紹介する活動を入れた。シリーズものの本を紹介することで、「すみれちゃんは、かりんちゃんが生まれて大変だったんだなあということが分かりました」と話す児童や「わたしも、すみれちゃんと同じことがあったから読んでもらってとても楽しかったです」など、自分の経験と重ね合わせながらお話の世界に浸っていることが分かった。読書の機会が増えることで最初は、教師側から図書の紹介が多かったが、次第に児童から教師への紹介、児童同士の紹介と積極的に読書に関わるようになってきた。

休み時間に、「弟とけんかして仲直りした話」や「妹をお風呂に入れてあげた話」などをお話

の主人公と繋げて話す児童がいた。「すみれちゃん」のシリーズ本より「もうかりん、泣くのやめよう」という言葉から「すみれちゃんは、やっぱりやさしいお姉ちゃんだなと思いました」と、主人公のやさしさを読み取っている児童もいた。一冊の本を通して共有体験・共感体験を深めたことができたと考える。

(3) 語彙を増やす工夫

教科書の中から調べたい言葉を選んで、家で調べさせることで語彙が増え、授業の中で想像を豊かにして思考する場面で生かしていた。

児童のノートには、「がんばりノートが新しくなり、その表紙をすみれちゃんとかりんちゃんみたいに『じっと。ずっと。』見ました」と教科書で学習した言葉を使って、日記を書いている児童がいた。授業の中で丁寧に言葉を取り上げて伝え合う活動を取り入れることで語彙が増え活用したものとする。それらの活動を通して「想像豊かに読む力」が育ったものと思われる。

(4) 話し方・聞き方指導

自信をもって発表ができるように、話型指導を行った。授業の導入で、話型の確認をすることで「友達が、はきはきしながら発表していたので分かりやすかった」という声があった。話型指導をすることにより、発表の仕方が分かり自信をもって発表することができたと考える。

他にも、グループでの伝え合いや「お話さんぽ」で、上手に発表ができるようになったと自信をもった児童がいた。授業の振り返りで「すみれちゃんのお話を友達に伝えることは少し難しかったけど、できたので嬉しかったです」と書いている児童の感想から、文型カードを活用した効果が出たと言える。

(5) 学習形態の工夫

想像豊かに読む指導のひとつとして、自分と違う考えに触れる機会をつくった。ペアで聞き合うことや、「お話さんぽ」、グループでの伝え合いを取り入れた。その結果、友達と自分の考えを比べながら読むことで、考え方の違いを知り、読みを深めたり広げたりすることができたと言える。さらに、話すことに慣れ、進んで発表にチャレンジする児童も増えた。

以上、これまでの考察をふまえ「書く指導、読書指導、話し方・聞き方指導」などを通して、「想像豊かに読む力」が育ったものと思われる。

Ⅸ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

(1) 文学的文章を読み取る学習指導の工夫をすることで、主人公の考え方や行動、心の成長過程をたどりながら主人公と自分とを比べ、「想像豊かに読む力」が育った。

(2) 読み聞かせや読後の語り合いを入れることで読書に意欲的になり、伝え合う活動を通してお話を想像豊かに読むことができた。

(3) ペアで聞き合い「お話さんぽ」で交流するなど伝え合う活動を取り入れることで自分の思いや考えを深めたり広げたりすることができた。

2 今後の課題

(1) 想像豊かに読むために、児童から出てきた光る言葉や参考になる文章を他の児童が、自分の文章へ効果的に取り入れる手立てを工夫する。

(2) 児童一人一人の読みの個人差に対応するための手立てを工夫する。

(3) 自信をもって発表ができるように、学習形態を工夫し、継続して支援する。

<主な参考文献・引用文献>

- ・吉永幸司・常諾真教・森邦博 2011 『読書指導の新しい展開<低学年>』 明治図書
- ・琉球大学教育学部附属小学校 公開研究発表会 2011 『2 学年国語科学習指導案』
- ・大越和孝・成家亘広・藤田慶三 2010 『読むことの言語活動例の展開』 東洋館出版社
- ・文部科学省 2008 小学校学習指導要領解説国語編 東洋館出版社
- ・日本子どもの本研究会 1988 『小学校低学年の読書教育』 国土社